



楓の誉

R4.6.24(第3号)
文責: 瀧上 佳宏

生徒に憧れられる教師に

今夏にある県内の教員採用試験の最終志願状況が発表され、県教委の平均倍率は前年度より〇・七ポイント低い二・七倍だったことが分かりました。特に小学校(一・三倍)や中学校の国語、理科、美術は、二倍を下回っており、危機的状況と言わざるを得ません。

そのような中、六月二十三日から第一子出産の産前休暇に入る 吉留 教諭の代替教員の任用を、昨年度から県教委にお願いし続けてきました。しかし、結論から言いますと、現時点で確保いただいていません。生徒たちの教育が保障できないという重大な問題となる寸前でした。そこで、中島 教育長にもご助力いただき、県教委と交渉を重ねた結果、この度、理科の非常勤教員の任用を認めていただきました(下段記事参照)。よって、吉留 教諭が担当していた理科授業に係る教育保障は、何とか担保できたこととなります。ただし、教員の業務は、授業だけでなく分掌業務や(副)担任業務、部活動等もあり、戦力ダウンであることに変わりはありません。代替教員の確保については、引き続き努力して参りますが、もし、教員免許を持つ方をお知りでしたら、本校管理職まで情報提供をお願いいたします。ところで、学校の教員はいつからこんなに人気のない職業になってしまったのでしょうか。教育学部の学生でさえ教員になろうとしない。この理由について、先日まで本校で教育実習していた熊大教育学部の学生に質問してみました。その答えとして、そもそも教員になろうと思っていないが、教育学部なら合格できそうなので進学したという学生が多いそうです。また、教員志望で入学した学生も、大学一年時早々、いじめ問題やクレーム対応等、今日の学校が抱えているマイナス面をとりあげる講義があるので、その気持ちも萎えてしまっているのではないかとのことでした。

悲しくなりますね。教員の仕事だけが「地獄」なんてことはありません。どの職業にも「やり甲斐」があるのと同時に、向き合うべき「厳しさ」も存在するはず。なのに、学校だけに「ブラック」というイメージがついて回ります。正直、マスコミの皆さんには、「一部分だけを切り取る報道は、もう勘弁してください。」と言いたい。少なくとも合志楓の森中はブラックではありません。ホワイトとまでは言いませんが、校舎同様、ガラス張りですし、風通しも良いと思っております。

しかし、私たちが教師という仕事の魅力を生徒たちに伝えているかと問われれば、疑問符が残るかもしれません。先日行われた市教委の概要訪問の際、教育委員の一人から、「目指す教師像」に「生徒に憧れられる教師」を書き加えるようご指導いただきました。たしかに大切な視点です。早速、本年度の学校経営方針にその文言を書き加えるとともに、本校職員にも、『生徒に憧れられる教師』を意識して仕事してください」とお願いしたところ。一人でも二人でも、将来、教師になりたいという生徒が増えてきたら、少しは教育の未来が明るくなるかもしれません。

全力を出し切った郡市中体連大会

十八日(土)、十九日(日)の二日間に渡り(ソフトテニスは十七日から)、令和四年度菊池郡市中学校総合体育大会(夏季大会)が実施され、各会場で熱戦が繰り広げられました。結果につきましては、HPにも掲載していますので、そちらもご参照ください。



最後まで全員で走り抜きました(3位:女子バスケットボール部)

私は、勝敗にはあまりこだわりのありませんが、選手たち、特に最後の中体連となる三年生一人一人に、満足感や達成感が残ったか否かは、とても気になります。そういった意味から、自分たちのパフォーマンスを存分に発揮できた競技が多かったと聞き、嬉しく誇らしく感じています。

優勝及び入賞、あるいは県大会出場権を得た団体・個人の皆さん、おめでとうございます。県大会でも菊池郡市の仲間たちの想いを背負って、正々堂々と闘ってきてほしいと思います。

産前休暇に入られた理科担当の 吉留 先生の理科の授業を代替するため、二十三日から着任した **北田 陸 先生** を紹介します。

北田 先生は、現在、熊本大学大学院の二年生で、既に県の教員採用試験に合格しています。現在は週二日、大学に行けばよいということで、月・火・木の週三日勤務いただきます。



学校HPのQRコード